

バレエ教室における 新型コロナウイルス感染予防ガイドライン

令和3年4月1日更新
公益社団法人日本バレエ協会

1 序

新型コロナ・ウイルス感染拡大が猛威を振るっていた状況をやや脱したとの安堵もつかの間、再びの第3波、第4波の可能性も垣間見える今日この頃ではございますが、昨年この時期に活動自粛・自主休業の要請を受け一時的とはいえ門を閉ざさざるを得なかった全国のバレエ教室主宰者の皆様は、その期間、生徒たちの為に何ができるか何をなすべきかを問いながら、また地域の芸術文化の担い手としての役割と責務を考えながら日々お過ごししておられた事と拝察いたします。

所謂第二波による本年3月の一部地域に於ける緊急事態宣言が解除された現在、あくまでも引き続きの感染予防策を厳に講ずることを前提としているとは申せ、学校教育現場と共に習い事教習所の活動もこれ以上の活動停滞はそこに集うとりわけ若い世代のモチベーション低下を招くのみならず彼ら彼女らが今まで努力して積み上げてきたものを全て失う危険性すらあり、座して禍の通り過ぎるのを待ってばかりはいられません。

しかしながらバレエ教室の運営、とりわけ宿命的に「3密」状態にならざるを得ない、というか「3密」でなければ稽古にならないレッスンの現場に於いては、感染予防に対して最大限の対策を実施することが前提条件として不可欠である事に変わりなく、ここに文字通り「道標」としてご提案するガイドラインは、国や地方自治体の方針を踏まえ、バレエ教室の活動再開に向けて実施すべき基本的事項を整理したものです。

勿論皆様の主宰するバレエ教室には運営形態や施設の規模など多様な違いがあり、同時に各地域に於ける感染状況に違いもある訳ですから一様にここでのご提案が実施できる環境にある、或いは有効であるとは限らず、また直ちに対応・実施することは難しい事柄も含まれているかもしれません。

従いまして以下のご提案が稽古場運営の必須条件ではありませんし、残念ながら全てを実施したところで感染が100%防げるという確証もございませんが、より感染予防効果を高めるための推奨事項として、運営の参考にしていただければと存じます。

2 本ガイドラインの概要

本ガイドラインは、令和2年3月以降、新型コロナ・ウイルス病禍に対し政府、或いは政府招集による専門家会議等で示された基本方針や提言（「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」、「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」等）に基づき、概ねそれらに準拠した上でバレー教室特有の状況を勘案して感染がレッドゾーンに達していない状況下での稽古場運営を仮定し、防疫の参考に供するために作成されております。

従いまして休業要請が発せられている、あるいはオンライン・レッスンにシフトすべきといった様な新規感染者が爆発的に増加している「緊急事態宣言」発令中、あるいは「まん延防止等重点措置」発令期間中の様な状況は想定致しておりません。

仮にその様な状況下であれば休業要請に従っていただくのが当然と考えます。

【バレー教室における感染症予防対策の実践例】

3、コロナ禍下でのバレー教室運営のガイドライン

前提

(1) 一人ひとりの基礎的感染対策（全般）

以下に示すガイドラインはバレーの教授業の立場からのガイドラインであり、基本はあくまでも国や教室が所在する都道府県、市町村からの通知・要請遵守が優先となります。

また学校等の休業状況を斟酌する等、総合的に判断して感染拡大状況の各段階に応じた適切な対応をとって下さい。

バレーに限らず守るべき感染防止の3つの基本

① 身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗い・消毒

- 人との間隔はできるだけ2m(最低1m)空ける。
- 会話をする際は可能な限り真正面を避ける。
- 外出時は症状がなくてもマスクを着用する。
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える。シャワーも浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石鹸で丁寧に洗う。(手指消毒液の使用も可)

バレエに限らず守るべき移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はなるべく行わない。
- 不要不急の外出は控える。
- 発症した時の為、誰とどこで濃厚接触的に会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) バレエ教室としての対策（教室主宰者側）

- 生徒付添父母の入室・見学はお断りすることを強くお勧めします。また入所希望者の見学も可能なら室外からにしてもらって下さい。
- 入口に消毒用薬液を常備し、生徒・教師共に入室時には必ず手指の消毒を習慣付ける。
- 生徒の入室時に検温を行う。またまた生徒父母とは生徒の体調に関して必要に応じて確認する。

ご注意 ・非接触型体温計には測定値が不正確に表示されるものも報告されておりますので購入前にネット等で製品の評価を調べる事をお勧め致します。

・パルスオキシメータの数値で新型コロナウイルス感染の有無の判断はできません。

- 入口のドアノブ、バーは頻繁に消毒液で塗布する。
- 室内の換気を頻繁に行う。
- 更衣室やトイレ、また更衣室の棚・備品等は生徒の入退室ごとに消毒を行う。
- 生徒以外の保護者付添いの入室を原則的に禁止する。
- 各クラスの間に対策ができるよう、レッスン時間・タイムスケジュールを考慮する。
- 更衣室の広さに応じて入室人数を決め、教師が入室制限を行う。
- 深夜に及ぶ延長レッスンを行わない事。特に時短要請が出ている場合には極力それに準じた稽古時間割に一時的に変更する。

(3) バレエ教室としての対策（生徒側）

- 本人は勿論、同居人に熱や風邪症状がある場合は必ず稽古を休む。
- 呼吸困難、熱中症が発症しないと思われる範囲でマスクを着用して受講。（夏用スポーツ専用マスクなども販売されています）

- ・水筒、ペットボトルなどを用意して頻繁に水分を補給する事。
- ・友人・姉妹間での稽古着やシューズ、タオル類の貸し借りは行わない。
- ・咳やくしゃみが出そうになったら稽古を中断してタオルで顔を覆う。
- ・来校時間、入室時間は教室の決めた時間に従い、教室が「密」状態になるのを避ける。
- ・稽古着は毎回洗濯済のものを着用する事。

(4) レッスンでの対策（教師側）

- ・上記の生徒側が守る事を繰り返し指導する事。
- ・常時換気に配慮してレッスンを行う事。
- ・原則マスク着用で指導。また生徒に余り顔を近づけず大声で叫ばない。

ご注意 ・表情が見えないからとフェイスシールドを装着して指導している教師の方も多い様ですが、飛沫拡散効果が薄い形状のものもありますので余りお勧め致しません。

- ・バー・レッスンの位置取りに注意し、最低限の間隔をあける。また向かいあわせでのバー使用は極力避ける。
- ・センター・レッスンでは順番待ちの生徒が密にならないよう間隔を空けて待機させる。
- ・パ・ド・ドゥ・レッスンは特に男性側に遠慮せずに事前の体調報告、行動報告（感染拡大地域で仕事をしていなかったか、PCR検査の有無等）を求めた上で行う事。また必要なら未成年女性生徒父母への同意を求める事。

万が一、感染者が教室関係者に発生してしまった場合は直ちに保健所に報告、地区行政の指示に従って対処を行って下さい。

【参考】大手スポーツ・クラブ子供教室の場合（令和2年当時）

1. 安全性確保に関する取り組み

臨時休館前に行っておりました、館内の消毒及び清掃の強化やお客様へのアルコール消毒のお願いに加え、感染拡大防止の観点より下記を追加いたします。

- ①フロントに飛沫防止シールドの設置
- ②チェックイン時に非接触型の検温器を使用した体調チェック（お子様・保護者様）
- ③安全に配慮しロッカールームにはお子様が集中しないように時間差をつけて案内いたします。

- ④ロッカールームについては1時間に1回の消毒および清掃を実施いたします。
- ⑤ギャラリー（観覧席）の消毒および清掃を実施いたします。
- ⑥スタジオについてはレッスン終了後に清掃および消毒を実施いたします。
- ⑦スクールバスは待機時間中に換気および清掃・消毒を実施いたします。

2. スクール運営に関するご協力のお願い

お子様、保護者様におかれましては来館時および、バス乗車時にはマスクの着用をお願いいたします。

また次の症状がある場合はスクールをお休みください。

- ①体温 37.5 度以上・くしゃみ・咳・怠さ・息苦しさ・胸の不快感・嗅覚／味覚の低下

またお子様が来館後に上記の症状が見られた場合はお迎えにお越し頂きますので、スクール参加中は連絡が取れる状態をお願いいたします。

- ②フロント及びギャラリーに消毒液を設置いたしますので、お子様、保護者様に入館時の手指の消毒のご協力をお願いいたします。

- ③ギャラリーでの観覧は、密集を避ける観点より極力お控えいただきますようお願いいたします。

またご利用状況により、ギャラリーおよび館内への入場規制をさせていただく場合がございます。

- ④ロッカールーム内の密集を避けるため、可能な限りご自宅で着替えを済ませてご来館いただきますようご協力をお願いいたします。

また着替えのお手伝いがどうしても必要なお子様以外は、保護者様はロッカールーム内に入ることをお控えください。

- ⑤スタジオクラスに参加されるお子様はマスクの着用をお願いいたします。
- ⑥レッスン終了後は速やかなご帰宅をお願いいたします。